

問題 19 国会に関する次のア～オの記述中、正しいものの組合せはどれか。

- ア 明治憲法においては、法律の委任なしに一般市民の権利を規制することができる命令として、独立命令のみが認められていた。
- イ 明治憲法においては、議会の可決した法律の執行を君主が否定できる制度（天皇の法律裁可権）があったが、日本国憲法においては、天皇の裁可権の代わりに内閣総理大臣に地方公共団体の長に与えられているような再議権（法律執行拒否権）が認められている。
- ウ 明治憲法においては、各議院の法律案提出が認められていたが、日本国憲法においては、議院の法律案提出権は明文で認められていない。
- エ 国会中心立法の原則は、国会と別の国家機関との権限分配のルールを定めたものともいえる。
- オ 議院内閣制を採用している日本国憲法上、内閣の法律案提出権は明文で認められている。

- 1 ア・イ
- 2 ア・エ
- 3 イ・オ
- 4 ウ・エ
- 5 ウ・オ

問題 20 条約に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 国会が法的意味においても国権の最高機関であることを強調する立場は、国会による条約修正を否定する見解と結びつく。
- 2 国会は内閣が締結する条約を承認する際、修正することができると思える立場は条約締結権限が内閣の専権事項であることをその根拠としている。
- 3 国会が内閣が締結した条約の承認をしなかった場合、その条約は国内法的にも国外法的にも無効であるとする立場は、条約は国家間のルールであるという点をその根拠としている。
- 4 憲法の方が条約よりも法的効力が強いと思える立場は、条約締結手続に関して憲法上規定がある点をその根拠としている。
- 5 憲法の方が条約よりも優位であると思える立場は、憲法 98 条 1 項及び 81 条の文言に忠実である。